

## 第30回SSORを振り返って

柳浦 睦憲 (京都大学)



SSORは、オペレーションズ・リサーチ関係の若手研究者、ORワーカーの自主的研究のための会合として、昭和40年以来、毎年夏に3泊4日程度の日程で開かれ、今年でちょうど30回を数えるに至りました。今回の記念すべき第30回SSORは、8月19日から22日にかけて、和歌山県南紀白浜の南紀シーサイドロッジにおいて開催されました。今年は、通信費削減のため(?)、思い切って郵送による案内を省略し、電子メールによる案内しかおこなわなかったにもかかわらず、招待講演3件、一般講演31件と多数の研究発表を募ることができ、また、参加者数ものべ97名と、盛大に開催することができました。これも皆様の暖かいご支援、ご協力の賜物と、事務局一同、深く感謝申し上げます。

全参加者のうち、10名は企業からの参加であり、SSOR開催の目的の1つである企業と大学の若手研究者の交流が、それなりに達成できたと思います。

さて、今回の目玉である招待講演では、まず、NTT通信網研究所の伊藤大雄氏が「領域グラフ上の連結度の問題」、京都工芸繊維大学の木瀬洋先生が「ファジィ推論に基づいたスケジューリング手法…FMSスケジューリングへの応用…」、そして、京都大学の茨木俊秀先生が「メタ・ヒューリスティックス：その意義と可能性」というタイトルでお話ししてくださいました。1人1時間という持ち時間は、チュートリアルとしてはやや物足りないかとも思われましたが、先生方はそれを感じさせないほど密度の濃いお話をしてください、たいへん勉強になりました。また、予定の時間を大幅に超過するほどの活発な質疑応答も交わされました。

一般講演は、4日間にわたっておこなわれ、その内容としては、組合せ最適化、数理計画、確率過程、意思決定など多岐にわたり、25分という持ち時間を生かして、じっくりとディスカッションがおこなわれました。ただ、欲をいえば、企業からの発表がもう少し欲しかったように思います。今後の発展に期待するところです。

最後に、お約束のレジャーですが、宿泊施設内にはテニスコート、プール、卓球場が確保されており、さらに、目の前が海という好条件のもと、皆さん、セッ

ションで疲れた頭をリフレッシュして、なお一層ディスカッションに励むことができたようです。また、今年のOHPは紫外線が強かったらしく、全日程が終わる頃には、皆さん真っ黒に日焼けしていらっしゃいました。

それはさておき、これらのレジャーと每晚開かれる懇親会を通して、専門領域や世代を超えた親睦を深めることができました。南紀白浜という有名観光地で開催されたため、美しい海や、豊富な観光スポットを存分に楽しむことができ、有意義な研究発表会とも相まって、今年のSSORは非常に魅力的なものであったに違いないと思います。

最後に、参加して下さった学生さんのコメントを挙げておきます。

佐々木 美裕 (奈良先端科学技術大学院大学) :

SSORは、私にとって学会関連の行事の中で最も楽しみにしているものの1つで、今年で3回めの参加となりました。昼間は研究発表の合い間をぬって、テニス、海水浴、ビーチバレーと忙しく動きまわり、夜には夜で毎年恒例のパワフルな宴会が待ち構えていました。東西の学生からベテランの先生や企業の方までが一同に集まって、お酒を酌み交す機会はなかなかないということもあり、宴会場のあちこちでいろいろな話題で盛り上がっていたようです。研究発表について討論する人あり、久しぶりに会った人たちと話に花を咲かせる人あり…。とても有意義な夜を過ごすことができました。最後に、スタッフの皆様、本当にお疲れさまでした。また来年のSSORを楽しみにしています。

Rauf-i-Azam (奈良先端科学技術大学院大学) :

It was my first experience to attend an SSOR annual conference this year August. I appreciate the efforts of the organizing committee who worked with a great devotion and provided an extremely good combination of academic and recreational activities.

In my opinion it was a very good opportunity for the young researchers, from all over the country to

gather at one place for the exchange of ideas and to present their work in a friendly atmosphere. Moreover, the diversity of the topics discussed, was also useful to get some knowledge of the areas, other than the area of one's own study.

Although, this four day conference was full of learning and enjoyment, for all the participants, I myself would have benefitted more if there were some people presenting their work in English. In my opinion, young researchers should be encouraged to give talks in English and this will definitely help them preparing for the future.

野々部 宏司 (京都大学) :

記念すべき第30回SSORは、4日間にわたり3つの招待講演と31の発表がおこなわれる一方、テニスコートやプールではSSORの目的の1つであるレジャーを楽しむ方々も多くおられ、特に2日目は日曜日で午後はセッションもなく、テニス大会や石が転がる砂利浜でビーチバレー大会も開催されました。こんな風に昼間を過ごしたあとは夕食を済ませ、今度はSSORの最大の目的である他大学や社会人の方々との親睦を深めるため、宴会組、麻雀組等に分かれて夜を過ごし、遅くまで大変賑やかでした。(あまりに賑やか過ぎて、従業員の方に注意されるなんてこともありました)

また3日目の夕食は懇親会も兼ねたもので、大学、企業別の自己紹介の時には、猿渡先生(防衛大学校)、永持先生(京都大学)の婚約発表も飛び出し、その夜宴会部屋ではその話で大変盛り上がったそうです。

最後に、参加された皆さんお疲れさまでした。今後も盛大にSSORが開催されることを願っています。

新時代のコンピュータ総合誌

隔月刊

# Computer Today

1月号・特集 偶数月18日発売/定価930円

## マルチメディアプログラミング

巻頭インタビュー/CD-ROM制作の現場から/マルチメディア時代のオブジェクト指向言語 Prograph CPX/もうひとつ別のマルチメディア/マルチメディア言語としてのHotJava/新オブジェクト指向言語: Self/デルファイに関して

連載 Postscriptに関する記事/アルゴリズムの道具箱 他

月刊誌

# 数理科学

毎月20日発売/定価980円

## 2月号 特集 観測問題とその周辺

観測問題とその周辺 並木美喜雄  
量子力学的測定過程の数値シミュレーション  
町田 顕・中里 弘道・S.パスカッチオ  
ゼノンのパラドックスと量子力学  
並木美喜雄・S.パスカッチオ  
メソスコピック系の物理と観測問題 村山 良昌  
量子カオス, 量子観測, エルゴード性 斎藤 信彦  
位相演算子の問題 藤川 和男  
量子測定多様性 井元 信之  
冷中性子干渉 大竹 淑恵・舟橋 春彦  
トンネル現象の物理 大場 一郎

別冊・数理科学

B5・定価1900円

# 物理法則——そのたて糸とよこ糸

☑ I. 物理法則を考える  
物理法則を考える/天の法則・地の法則  
☑ II. 様々な物理法則  
かたちの法則・法則のかたち/最小作用の原理/物理法則と非線形性/物理法則と漸近的法則/一般相対論の物理  
☑ III. 量子力学における特異性  
不確定性の役割/超低温・超流動/場 他  
☑ IV. 保存則と対称性  
自然における保存則と対称性/保存則について/時間はおりかえす?/超伝導, 超流動における対称性の破れ 他  
☑ V. 可逆と非可逆  
物理学における時間の矢/統計力学における不可逆性 他  
☑ VI. 新しい物理法則を目指して  
カオス/カオスと1/fゆらぎ/液晶にみられる不思議な法則/物理法則における還元主義と反還元主義 他

## サイエンス社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-25  
☎ (03) 5474-8500 振替00170-7-2387